

2009/04/20 (mon)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニ充電拠点に」
- 2) 「環境に優しいホタテ貝洗剤」
- 3) 「面白野菜を育てる」

-----

1) 「コンビニ充電拠点に」

コンビニ大手や有識者から構成する経済産業省の研究会が、コンビニ業界が連携して取り組むべき社会貢献策を取りまとめた。

深夜営業や大量廃棄で環境への配慮が問われるなかで、コンビニエンスストアに電気自動車の充電スタンドを整備すれば電気自動車の普及に弾みがつき、温暖化ガスの排出削減につながるかとみてスタンド併設を盛り込んだ。報告書は今週にも公表され、これをもとにコンビニ各社で共同宣言をまとめる。

全国に43000店以上の店舗を有するコンビニは、充電ステーションとして低酸素社会を支えるインフラとなると考えられている。

コンビニ各社はこの他にLED照明の導入も盛り込み、各社が連携することで環境保全の取り組みを一気にアピールしていく方針だ。賛否両論あるコンビニの環境問題だが、一つの答えを出そうとしている。

-----

2) 「環境に優しいホタテ貝洗剤」

ホタテ貝の貝殻を使った洗濯用洗剤は、ホタテの貝殻の土壌の酸性質を改良する効果があることを利用し、環境に優しい洗剤として注目を集めている。石油系の合成界面活性剤を使っていないので肌と環境に優しいことは確かだ。

更に、あえて泡立たないように作られている為、すすぎが早く済み節水につながる。消費者はよく泡立つことが汚れを落とすという見た目のイメージにとらわれがちだが、これまでのものは泡立ち剤として余計なものが使用されてきた。環境に優しいということで無駄を省くことが出来る、いわば一石二鳥の商品だ。

合成洗剤と比べても遜色ない洗浄力を発揮し、食器の洗浄や漂白、住まい用洗剤としても利用できる所以今後の普及が見込まれそうだ。

-----

3) 「面白野菜を育てる」

スーパーにあまり出回らないユニークな形をした面白野菜が人気のようだ。

葉の表面に氷の粒のような液胞がある「アイスプラント」という葉は、栽培に手間がかからず、何よりおいしい。生でサラダにすると薄い塩味のシャキッとした食感が楽しめる。サボテンと同じ多肉植物で世話に手間がかからず、新芽をちぎっても2週間後には新しい新芽を出し、管理がよければ1年中収穫できる。味噌汁や煮物の具に適しているのが、空中にぶら下がる巨大なムカゴ「エアーポテト（宇宙いも）」。土の酸度を堆肥や肥料できちんと調整すれば、水やりは雨にまかせるだけでよく、11月頃には収穫できる。その他には果物のように甘い「スイートパール」という食用ほおずきなどがおすすめだという。こちらも管理がよければ植木鉢で100個は実が取れるそうだ。ここ2、3年で品種も増えてきた。家庭菜園などと気張らずに、プチガーデニング気分で育ててみてはどうか。

一部のスーパーでは新種野菜を積極的に取り入れているところもあるが、消費者にとっては食べ方などの情報が少なければなかなか手が出ないということもあるだろう。商品だけでなくこうしたプラントキットを一緒に置けば、未知の野菜も「自分でも育てられるものなんだ」と認識でき、親近感を持ってもらえるのではないか。